

アルコール感受性遺伝子検査キット

お酒と楽しく長く付き合うために

自分のアルコール体質をチェックしましょう!

お酒は鍛えれば強くなる? お酒の強い人は依存症にならない?
アルコールに関する「常識」「風潮」は本当に正しいのでしょうか?
一人一人の酔っ払いやすさ、二日酔いのなりやすさなどは、
かなりの程度、遺伝的体質で決まります。



2種類の
遺伝子
を
Check

自分で出来る
簡単
採取

わかりやすい
DNA結果
レポート

具体的な
アドバイス

- ・医療機関での予防医療のために
- ・社員の飲酒による健康障害や飲酒運転等のリスク回避に

何を分析して何がわかるのか?

検査結果は9タイプ

タイプ	ALDH2 [活性型]	ALDH2 [低活性型]	ALDH2 [非活性型]
ADH1B [低活性型]	依存症リスクが最も高い 大酒飲みタイプ  W1型 (2.8%)	飲酒による健康リスクが最も高いタイプ  R1型 (1.8%)	お酒を受け付けない 完全下戸タイプ  RR1型 (0.3%)
ADH1B [活性型]	つい飲み過ぎてしまう 大酒飲みタイプ  W2型 (16.0%)	飲酒による健康リスクが高いタイプ  R2型 (14.4%)	お酒を受け付けない 完全下戸タイプ  RR2型 (3.3%)
ADH1B [高活性型]	つい飲み過ぎてしまう 大酒飲みタイプ  W3型 (30.8%)	飲酒による健康リスクが高いタイプ  R3型 (24.7%)	お酒を受け付けない 完全下戸タイプ  RR3型 (5.9%)

人間の持つアルコールに対する感受性(酔いやすさ、お酒の残りやすさ)は、主に2つの遺伝子(ADH1BとALDH2)で決定されます。自身のアルコール体質を遺伝子レベルで知ることにより、単にお酒が強い(飲める)、弱い(飲めない)を判断するだけでなく、「どんな体質なのか?」を理解し、「飲酒による健康障害のリスク回避」に役立てることが大切です。